

部会・プロジェクト紹介②

水部会

このコーナーでは MELON の活動母体である各部会・プロジェクトの活動を、1つずつピックアップして紹介していきます。

みなさんは、生活の中で1日にどのくらいの水を使っていますか？

私たちは毎日たくさんの水を使い、排出し、川や海を汚してしまっています。地球は地表の74%が水で覆われていますが、このうちの97.5%は海水で、実際に私たちが生活に利用できる淡水は約0.01%です。川や湖沼の淡水はとても貴重な水資源です。

川や湖沼、海の水は太陽のエネルギーを受けて霧や雲になり、雨や雪となって地表に再び降りてきます。水部会では地球をめぐるこの大きな「水循環」を考え、またその中で人の関わりを考えます。

水がとても貴重な資源であるということや、健全な水循環について考えてもらいたいと、水部会では講演会や観察会を実施しています。昨年は特に『飲み水』に着目し、約300人を対象とした意識調査を行いました。秋にはこの結果を踏まえた講演会「安全でおいしい水」を開催しました。また、水辺に親しみその環境について考えてもらうため、冬には伊

豆沼・蕪栗沼周辺での渡り鳥観察会を実施しました。今年は飲み水ができるしくみに着目し、8月に市民を対象に浄水場見学会を実施します。

水部会の例会は、参加者の都合にあわせ、月一回程度不定期に開催しています。『水』に興味のある方は大歓迎ですので気軽にご参加ください。

事務局担当／鈴木



6/26 (土) 総会にて。テーマは『親水』でした。

MELON20周年をめざせ！

50人リレートーク

第2回目の執筆者

加藤伊佐雄さん
(河北新報東京支社
編集部長兼論説委員)



昨年1~6月に河北新報で70回連載した企画「豊かさの死角『無登録農薬』から考える」が5月末、第19回農業ジャーナリスト賞（農政ジャーナリストの会主催）に選ばれた。6回目の受賞なので常連の仲間入りをしたわけだが、今回は「食の安全と信頼性を多角的に分析、報道した力作」と高い評価を受けた。

企画を読んでいただいた方も多と思うが、このシリーズは「生産者はなぜ無登録農薬を使ったか」より、「生産者に無登録農薬を使わせた見えざる力とは何か」に力点を置いた。取材先の日本消費者連盟幹部は「無登録農薬事件は生産者がしっかりしていればいいのよ」と農家の自己責任論を主張したのだが、私たちのシリーズはまさにこの発言に対する

アンチテーゼであった。行きすぎた市場ニーズと食の主体性を失ってしまった消費者のライフスタイルこそ「見えざる力」だと問題提起したのだ。

その後、早稲田大学に招かれ、学生を相手に90分間の授業をする機会があった。講義テーマは「連載企画・豊かさの死角『無登録農薬』から考える——と私たちの立場」だった。特に市場メカニズムに翻弄される若者の食生活を中心に話をしたのだが、受講生の表情は真剣そのもので、授業時間を過ぎても質問が終わらず、中には自己批判をする学生もいた。若者の関心の高さは予想を超えていた。

企画は単行本「無登録農薬はなぜ使われたか」（日本評論社）にまとめられているので、ぜひ一読を。

..... 次号予告

次は、及川昭子さん。

J Aみやぎ女性組織協議会フレッシュミズ前会長。「豊かさの死角『無登録農薬』から考える」の座談会に参加。

♪お知らせ♪「無登録農薬はなぜ使われたか」（日本評論社）をMELONから3名の方にプレゼントします！詳しくは8面をご覧ください。